

令和5年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (中間段階)

令和5年11月22日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的にわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>	<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p> <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』 学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・希望進路に照らして』 学校行事 『生徒主体・多様な人とつながる・自己肯定感・生きる力を育む』 特別支援 『情報共有・家庭・関係機関との連携・個に応じて・日常観察』 ICT活用 『校内研修の充実・教材開発と共有・他校連携・チャレンジ』 生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』 部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』 広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生や卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』</p>			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
教育課程 学習指導 (教務部)	主体的に学びを深め、基礎学力を向上させるための実践的な研究を重ね、「やればできる」という自信と自己肯定感を高めるとともに、学習習慣の定着と多様な進路実現に繋がるような学習指導を行う。	1・2年生では新教育課程の本格的な実施にともない、また、3年生は来年度からの実施を見据え、授業デザインや観点別評価のあり方について検討を重ねる。	C			<p>○年度当初に、観点別学習状況評価の実施に向けた研修会を行い、評価方法や評価のカットライン、課題等について、情報共有を行うことができた。 ○6月に研究授業や公開授業週間を設定し、実施することができた。11月にも公開授業週間を設定し、研究授業を展開するほか、「すべての授業が公開授業」を合言葉に、可能な限り多くの先生方に参観を依頼し、授業者と参観者双方にとつての授業改善に繋がるように取組を進める。 ○実際の授業を通じて、具体的な評価方法や規準を収集し、それらを「たたき台」としながら、指導と評価の一体化や、生徒の実態により近い評価について議論し考察していく。</p>
		観点別評価の充実に係る各種資料の共有や研修等を行い、生徒の学習に対するモチベーションや基礎学力の向上に繋がる、指導と評価が一体化するような実践を進める。	C			
		教科の枠を超えて、研究授業や公開授業週間など、授業実践の研究や改善に繋がる機会を複数回設け、指導力向上のための一助とする。	B			
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を全教職員と協力して、育成する。	遅刻指導、装飾品指導、携帯指導、身だしなみ指導の件数を減らし、落ち着いて学習に向かえる環境を作り、自律できる力を育む。	B			<p>○遅刻や装飾品指導等に関しては、昨年度と比較しても減少傾向にある。その一方で、遅刻を常習的に行う生徒が未だ存在するのも事実である。指導に関しては、一人一人抱えている問題も異なり、成長する過程も違うことから、その生徒にあった課題を工夫し、取り組ませている。生徒自身が自らの問題に主体的に考え、成長できるよう声をかけ対話を大切にしながら生徒指導が行えている。 ○各行事を充実させ、生徒自身が他者から学べる環境作りに努めている。他者との違いを認めながら自分の意見を言えるような環境を作ることで、人権意識も植え付けさせたいと思っている。行事等を通すことにより、他者と協力しながら自らも成長していく姿も見られた。行事後にも振り返りを行うことで、行事の存在意義の再確認もできている。 ○行事等で人権意識の向上にも努めているが、人権学習としても本校の生徒に関連することを考え、講師等も活用しながら取り組んでいる。</p>
		指導生徒の理解に努め、「発達支持的生徒指導」を有し、個々に合った生徒指導を実践する。	B			
	褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高める取組を進める。	各行事への取組を通して、クラス・委員会の自治力を高め、リーダーを育成する。行事後、「やりきった」と達成感を得られる生徒の割合を増やす。	B			
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめを許さない態度・能力を育成するために、人権学習を充実させ、日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。 日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。	B			

進路指導 (進路指導部)	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	B	<p>○スタディサポートを効果的に利用するために、1年生は事前に説明会を、2年生は事後に振り返りを行う。事前学習の冊子は授業でも活用してもらった。</p> <p>○総合型選抜の受験者が近年増えている。面接指導に多くのエネルギーを費やした。効率的な指導計画の立案が求められる。</p> <p>○夏の面談前に三進会(志望校検討会)を持つことが出来た。</p> <p>○就職の生徒は指導に従い、よく頑張っている。</p> <p>○志望理由書の指導は9月に開始。3年の4月にはそれぞれの進路に応じた文章を書かせる予定。それまでにいくつかの節目を設け、自分の将来について考えさせる機会を持つ必要がある。1年生は11月に職業理解ガイダンスを実施。</p> <p>○Claasiの活用は、連絡、アンケート調査にとどまっている。</p>
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、志望理由書・小論文対策として、生徒に「書き方講座」の受講、小論文模試の受験を課す中で文章の書き方の基礎を固めさせ、全教職員による個別指導につなげていく。	B	
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。その道のりにおいてWEBテスト、動画などを効果的に活用できるよう導く。	B	
		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	B	
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B	
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。	B	
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。	A	
	進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーし、自分で計画的に学習する基礎を固める。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にする取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。	B	
		進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。	B	
	ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	生徒の学習習慣を形成し、自ら伸びていく力を育むために、WEBテスト、動画の配信、学習時間の記録などの教材やしぐみを効果的に使っていく。	C	
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。 生徒の健康についての意識を高める。 環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担当・教科担当者と共有し、支援体制を整える。	B	<p>・支援体制については、現状の人員で何とかできているが、支援を必要としている生徒の数(潜在的なものも含む)が多く、手が回っていない面はある。対策として、SCの常駐・養護教諭の正規職員複数配置・特別支援教育コーディネーターの授業時間軽減などが望まれる。</p> <p>・健康教育については、薬物乱用防止教室・性教育講演会をそれぞれ2学年にわたって実施した。健康診断の事後指導については、肥満と低体重の生徒に対する栄養指導、要精密検査の生徒に対する受診指示などを行った。</p> <p>・ゴミステーションでの日々の指導で、分別についてはかなり整理されてきている。量のさらなる削減については、美化週間での取組や、HRでの呼びかけを継続しておく。</p>
		薬物乱用防止教室や性教育講演会を実施し、適切な行動選択や意思決定が可能な生徒の育成を図る。また、健康診断等の事後指導に力を入れ、自身の健康についての生徒の意識を高めるよう試みる。	B	
		公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組み、ペットボトルキャップリサイクルに取り組む。	B	

特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画部)	学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、ホームページや公式SNSなどを通じて広報活動を充実させる。学校と地域・保護者等との相互の信頼形成のために、本校の教育活動について広く情報提供する。	学校ホームページや公式SNSを随時更新して、本校の教育活動や生徒の様子等について発信を行う。	B	○広報活動については、昨年度より継続して行っている公式SNS等を通しての本校の教育活動や生徒の様子等についての情報発信が実を結んできているが、発信内容や時期に偏りがあるなど課題がある。 ○学校説明会においては、昨年度までの堅苦しかった説明会を一部変更して、生徒を通じて本校の魅力を知ってもらうための仕掛けを行うなど、学校の魅力を楽しんでもらいながら伝えることができた。 ○保護者や地域、中学校への情報発信については、発信の機会や形態が固定化されており、新たな発信方法等を模索していく必要がある。
		学校の内外に向けて丁寧な情報提供を行い、保護者や地域、中学校から信頼される学校を目指す。	C	
	1人1台の学習用端末導入を円滑に進め、端末の管理・整備を行い、生徒・教員のICT活用をサポートする。教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。また、利用規程や使用方法を周知し、情報モラルの向上を図る。	C	
		学校全体でICT活用が進むよう研修会等を通じて、操作方法や活用方法・活用事例の共有を行う。	B	
	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	図書館だよりや図書委員会だよりを定期的に発行し、生徒おすすめ図書などの情報を提示する。また、図書委員会の活動を通じて、本の魅力を発信する。	C	○一斉読書を実施したり、図書館だよりや図書委員会を通じて、おすすめの本情報を広報したりするなど、本に触れてもらうためのきっちりづくりや働きかけを行うことはできたが、読書習慣の定着や、図書館利用者の増加には繋がっていない。読書をより身近にするための具体的な仕掛けや働きかけが必要である。
	教科での図書資料活用の推進や一斉読書週間の実施を通して、本に触れる機会を確保する。	C		
教育環境 整備 (事務部)	・安心・安全な施設設備の維持管理を図る。	定期的に施設設備の点検を実施し危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できるよう維持管理に努める。また、かねてからの懸案事項であったグラウンド施設等の改修工事(防球ネットの新設・クラブボックスの撤去)や普通教室の空調設備更新が着工されるが、日常生活と並行しながらの工事となるため、関係各所との調整を図る。	B	○施設設備の日常点検や台風通過後等の臨時点検により安心安全な施設維持管理を行うことが出来た。かねてより老朽化が指摘されていた空調設備や、防球ネットの改修やグラウンド施設について、改修が行われる。それに伴い校内では関係する分掌、教科等との調整を図っている。今後、業者が決定するとさらに綿密な打ち合わせが必要となってくる。 ○特色ある教育活動を進めるためにも外部人材の活用や教材の整備を図っていく予定である。 ○各学年や進路指導等と連携し、在学中の修学援助制度や進学後の各奨学金制度について、周知に努めた。様々な事情から必要書類の提出が遅延するケースが多いため、さらなる対応が必要である。
	・特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効率的に執行する。	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、通常の学校生活が取り戻せるよう教育環境を整備するとともに、各分掌・教科との連携をとりながら効果的な予算執行を図る。	B	
	・修学支援	援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。	B	
第1学年部	社会をつくる一員になることを展望しながら、あたりまえのことをあたりまえにできるように促す	・時間や〆切を守って行動できるように促し(遅刻・欠課をしない、ベル着、提出物〆切を守るなど)欠席・遅刻過多による原級留置をできる限り減らす。 ・プライベート、オフィシャル、フォーマルの違いを意識させながら、TPOに応じた身だしなみができるように指導する。 ・スマホやiPadの使用ルールを理解し、守れるように促す。SNSとのつき合い方についても考えさせる機会を作りながら、正しく使用できるよう促す。 ・以上のことについて、他分掌と連携しながら、また保護者の理解を得ながら日々の指導に当たる。	C	○時間を守れる生徒が比較的多いが、学校生活に慣れるとともに遅刻や欠課が目立つ生徒が出てきた。身だしなみについても同様で、声を掛けてもやり過ごす生徒が増えてきている。 ○様々な理由で不登校状態になったり、転退学したりする生徒が出てきている。早めの三者面談や家庭訪問をしつつ丁寧に話を聞くようにしている。 ○授業中のスマホの扱いや装飾品指導に関しては、生徒指導部と連携しながら段階を踏んだ指導ができていて、一部に歯止めのかかない生徒もおり、今後どう指導していくかが課題である。 ○授業については、一部の講座やクラスで集中しにくい現状があり、個別指導を含めて様々な方法で指導を試みているところである。調査前補充には多くの生徒が参加しており、指導から逃げる生徒は少ない。しかし学校以外での学習に向き合えず定着が不十分な生徒がいたり、個別に支援の必要な生徒が多くいたりという困難がある。今後も教科担任と連携しながら単位認定、進級を目指す。 ○文章を書かせる機会を設けてはいるが、十分なフィードバックをする余裕がない。 ○進路指導部のリーダーシップのもと、進路について考える機会を適宜設けている。明確な進路目標を持つ生徒もいれば、大学進学を口にしながら模試を受けようとしていない生徒もいる。全体指導が入りにくく、個別に声をかける必要がある。
		・高校における学習の方法を身につけさせる。指示をよく聞き、主体的に授業に参加するとともに、調査前にとどまらず学習する習慣を身につけるよう促す。つまづきを抱える生徒に対しては個別指導も含めて丁寧に指導に当たる。 ・ことばの力の育成に努め、思考や感性を育む。HRなどを通じて様々な文章を読ませ、多様な考え方を知る機会をつくる。また読書を通して様々な作品に触れるよう促す。正しい原稿用紙の使い方、正しい標記で用紙いっぱいを書くように促す。相手に伝わるように表現を工夫するよう促す。 ・進路指導部と連携しながら、卒業後の進路についての情報提供を適宜行い、卒業後の展望が持てるよう促す。	C	
		・お互いが気持ちよく過ごすことができるように、挨拶、場面に応じた言葉遣い、清掃活動やゴミの分別ができるように促す。また下足箱やロッカーがきちんと自分で管理できるよう呼びかける。 ・人権について様々な機会に考えさせ、正しい理解をするとともに自分の言動につなげることができるよう指導する。また来年度の研修旅行に向けて、教科とも協力しながら適宜平和学習に取り組む。 ・行事や部活動、生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組むよう促すとともに、自分とは合わないと感じられる相手とも協同してものごとに取り組むことができるよう指導する。 ・各分掌や各部活動顧問、保護者と連携しながら、生徒の実態把握に努め、細やかな指導に生かす。特別な支援の必要な生徒についての情報共有を図る。	C	

第2学年部	学校生活における様々な場面で、規範意識を持ち、何事も全力で取り組む生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい人間関係を構築させるために、学校行事などに主体的に取り組むよう促す。 ・生徒の良い面を見つけ伝えながら、生徒の自己肯定感を高められるようにする。 ・あいさつをすることや時間、ルールを守ることについて学年で一致した指導を行っていく。 	B	<p>○文化祭や体育祭などで一生懸命取り組むこと、応援することの大切さについて日常的に声かけを行ってきた。また、生徒の改善点はもちろんのこと、良い面を伝える努力を学年統一で心掛けている。しかし、遅刻が多かったり、ルールを守りきれない面が大いにあるので、その改善に向けての取り組みが今後も必要である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と日常的に面談等を行いながら、日々の授業の大切さを伝える。 ・教科担当者と密に連携しながら、生徒の情報把握に努める。 	B	<p>○学年集会や個別の面談を通して、日々の授業の大切さを伝えているが、遅刻が多く欠課時数が増えている生徒が多数いる。教科担当や家庭などと密に連携し、生徒の進級に向けて取り組んでいく。</p>
第3学年部	成人を迎えるにあたり高校生としての振る舞いや社会性、規範意識を育成する。全員の希望進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルール、マナー等、高校生としてだけでなく社会人としての振る舞いや規範意識を育成するために関係分掌と連携しながら粘り強く指導する。 ・クラスでの協働活動を通して自分の可能性に気づくことで自己肯定感を高め、周りの人を支えたり、自分自身も他者も「幸せ」になる環境づくりを支援する。 	C	<p>○卒業や進路実現に向けて進路指導部や生徒指導部と連携し、LHRや講演会、説明会など様々な場面で時間やルールを守ることの重要性を継続して指導しているので、講演会や学年集会では身だしなみを整えた状態で時間通りに始めることができる。ただ普段の学校生活において身だしなみを整えることができない生徒がいるので卒業まで継続して指導を行う。</p> <p>○文化祭では仲間と協力しながら自分の役割を理解して、クラスのために努力することができた。進路についても仲間とともに互いを認め合い協力して高め合うことができる生徒が増えていたので継続して指導する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業を大切に、主体的に学習に取り組む習慣と自学自習をする習慣をつけるために教科担当者と連携して指導する。 ・進路指導部と連携し、進路関係の資料や情報を共有することで、個人面談を充実させる。また具体的な進路先を早期決定できるように支援し、希望した進路の実現を図る。 	C	<p>○1学期中間考査後に成績不振者へ卒業と進路実現への意識を高めるために教務部と学年で指導を行ったが成績不振者や欠課時数過多の生徒が多く、今後も継続して指導していく。</p> <p>○進路指導部からの情報や資料を面談で活用し、進路実現への意識を高め、ほとんどの生徒が進路目標を決定して努力することができている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を中心に最上級生として主体的に行動し、学校全体を正しい形で牽引する力を育てる。 ・進路に向けての取り組みや部活動など、努力している人を認め、応援し、励まし合える集団の育成に努める。 	B	<p>○文化祭では主体的に取り組む、演劇やパフォーマンスなど完成度の高い発表をすることができた。体育祭では話を聞く態度や仲間を応援する姿勢など、良い雰囲気をつくることができた。</p> <p>○受験や就職試験に向けて努力している生徒が増え、アドバイスし合ったり、合格した生徒をたたえ合ったりする雰囲気が出ている。合格が決まった一部の生徒に浮ついた雰囲気が出ているので、規律ある学校生活を送ることができるように卒業まで継続して指導を行う。</p>

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	